

いさわ



地元農家の指導を受けながら作業をする参加者

10月1日、大阪ABCラジオの番組「笑たま」のリスナー20人が、胆沢区南都田の石川千早さん宅の田んぼで稲刈りを体験しました。

広く岩手産米をPRする目的で、平成10年から続けられてきたこの取り組みでは、春の田植えと秋の稲刈り作業が行われ、番組の募集に応じた人たちが参加しています。参加者は岩手ふるさと農協稲作研究会の人たちから、かまの使い方や、稲の束ね方などの指導を受け、作業に汗を流しました。

約2時間で刈り取りを終えた田んぼのほとりでは、参加者が昼食を囲みながら、収穫の話題に花を咲かせていました。

秋晴れの下でさわやかな汗
大阪のラジオ番組が稲刈り体験

まちの話題



まえさわ

命名者新平に思いを巡らせ

シチズン時計社長が講演



後藤新平について話す梅原社長

来年、後藤新平が生誕150年を迎えることを記念し、「後藤新平講演会」が9月22日、市文化会館（Zホール）で開かれました。

学生や一般市民ら約900人を前に、シチズン時計の梅原誠社長が「後藤新平とシチズン時計」と題して講演。シチズン時計は「世界の市民（シチズン）から親しまれ愛される時計に」という願いを込め、設立者と付き合いがあった後藤新平によって命名されました。梅原社長は、後藤新平について「大きな理念を持ち、日本の将来を考えて行動した人」と話し、郷土の偉人後藤新平が残した功績をたたえていました。

幻想的なハーモニーに酔う

牛の博物館でコンサート

9月9日夜、前沢区の牛の博物館で「ひとつき早い十五夜コンサート」が開催されました。

11回目のことは、二胡（中国楽器）奏者の今井美樹さんとアルパ（中南米のハープ）奏者の藤枝貴子さんによるユニット「ALPHERA」を招いて行なわれました。なじみの楽曲から中国や中南米の楽曲まで、民族楽器独特の音色が奏でる幻想的なハーモニーに、会場いっぱいに集まった200人の観客は静かに聴き入っていました。

演奏の合間には前沢中学校合唱部が若さあふれるさわやかな歌声を披露し、聴衆を魅了しました。



雨天のため館内で行われたコンサート

伝統工芸士の技に挑戦する

岩谷堂筆笥の出前授業



かなん掛けに挑戦する広瀬小児童

江刺区の広瀬小学校（小野寺敏雄校長、児童61人）で9月26日、岩谷堂筆笥を製作する伝統工芸士らが講話、実演をする出前授業が行われ、3年生以上の児童37人が出席しました。

岩谷堂筆笥生産協同組合（菊池広志理事長）が、国の伝統的工芸品に指定されている筆笥がどのように作られているかを知ってもらおうと、5年前から開いています。木地の加工作業の実演では、児童らも伝統工芸士の指導を受けながらかなん掛けに挑戦。力を入れ過ぎて尻もちをついてしまう児童もいて、1人が終わるたびに大きな歓声が上がっていました。

はじける踊り熱気みなぎる

YOSAKOI in みずさわ



華麗な演舞を披露する地元よさこいチーム

馬産地の文化を今に伝える

衣川で萩刈唄の全国大会

馬の飼料にもなった萩を刈り取る際に歌い継がれてきた「萩刈唄」の全国大会は9月9日、国民宿舎サンホテル衣川荘で開かれました。大会には6歳から85歳までの66人が参加。市内からも30人が参加し、自慢のどを競いました。

衣川の北股地区には馬の栄養源だった萩の群生地があったことから、馬の飼育が盛んになったといわれています。いつごろから歌われるようになったのかは不明ですが、宮城県北地方でも歌い継がれている萩刈唄があるとのこと。今回はその宮城県で伝わる唄を歌った伊東喜一さん＝仙台市＝が優勝の栄誉に輝きました。



自慢のどを披露する参加者